



REAL RACING

6月22日(予選/13時20分時点)

天候:曇り

コースコンディション:ドライ

気温:23°C 路面温度:24°C

2019年6月23日(日)宮城県・スポーツランド SUGO で2019年シリーズ第3戦の全日本スーパーフォーミュラ選手権が開催された。

今大会の開催地となるスポーツランド SUGO は1周の長さが短く、各車のタイム差が出にくいサーキットであり、20台近くが一度にアタックに入るQ1は、トラフィックに引っかかってしまうことが多く、予選最難関のセッションと言われていた。その解消策として、ドライバーがアタックするために十分なスペースが取れることを目的とした SUGO 戦特別ルールが施行された。今大会の予選フォーマットはQ1で20名のドライバーを10名ずつA組B組に分け、各組の上位6台がQ1を突破することができ、Q2からは通常と同じ方式となる。

6月22日(土)。午前中のフリー走行はウェット宣言のもと行われたが、雨が降ることはなく終了した。その後も雨が降ったり晴れ間が見えたりと不安定な状態のまま迎えた予選。その開始時刻間近になると冷たい風が吹き始めるが、コースはドライコンディションのまま。前日の抽選でA組にて予選を走行することとなった#17リアルレーシングの塚越広大はミディアムタイヤを装着し、予選開始と共にピットアウト。10分間という短いQ1セッションをスタートさせた塚越は路面温度が低い状況の中でタイヤを温めアタックに入る。そして4周目の終わりに1'05.979のベストタイムを計測し、A組5番手という結果にてQ1を突破することとなった。

30分間のインターバルを経て、Q2がスタートしたのは14時。ソフトのニュータイヤでコースインした塚越は、アタックに入った3周目に1'04.514計測しQ2を6番手で通過してQ3に進出することとなった。

Q3セッション開始直前に雨が降り始めたコース上だったが、スリックタイヤでコースインした塚越は、天候の変化を避けるために早々にアタックへの準備を整える。3周目に入りアタックに入ろうとした塚越だったが、その矢先にSPコーナーで他車がクラッシュしたため赤旗が掲出されてしまう。セッションはここで中断し再開を待ったリアルレーシングだったが、残念ながらこの時点でセッションは終了という決定が下され、5番手でQ3を終了した。その後、赤旗要因となったチームのタイムが抹消され、塚越は翌日の決勝レースを4番手から出走することとなった。



REAL RACING

6月23日(決勝/14時20時点)

天候:曇

コースコンディション:ドライ

気温:24°C 路面温度:33°C

6月23日(日)決勝日。日差しを感じる程の暖かいコンディションで迎えたスーパーフォーミュラ第3戦の決勝レースは68週の周回数を予定し14時20分に開始された。#17 塚越はミディアムタイヤを装着し4番グリッドからマシンを出走させたが、オープングラップの1コーナーで1台のマシンにオーバーテイクを喫し順位を5番手に下げた。同じくミディアムタイヤで出走した他チームがオープングラップ終わるとともにピットインする中、塚越はコース状況を見ながら5周目の終わりにピットイン。ミディアムタイヤからソフトタイヤへ交換し再度コースインした塚越だったが、そのピット作業に思わぬ時間を要してしまい18番手でマシンをコースに戻すこととなってしまった。ここからは前を行くマシンを追い越すのみとなった塚越は、ただ前車のマシンに集中し虎視眈々と隙を狙い続ける。そしてミディアムタイヤで出走した全チームがピット作業を終えた21周目の終わりに塚越は15番手を走行。その後苦しくも長い、前車を追い込む戦いを続ける塚越。50周目に入り、スタート時にソフトタイヤで出走したマシンが続々とピット作業に入り始めると少しずつ実際の順位が見え始める。ほとんどの車両がピット作業を終えた52周目に塚越は12番手を走行し、55周目には他チームの車両不具合で11番手にポジションを上げる。そして、その翌週の56周目に入ると1台の車両がコースサイドにマシンをとめたためセーフティーカーが導入される。車両回収が終了しセーフティーカーが退出した60周目に10番手を走行していた塚越は、残り8周で1台でもポジションを上げるべくマシンを再スタートさせたが、同周回にもまたもや1台のマシンがコース上にマシンをとめて、セーフティーカーがコースインすることになってしまう。その後65周目に入りレースは再スタートするも、そのまま68週の周回を終了し#17 塚越は10位でチェッカーを受けることとなった。レース終了後、他車にペナルティが課せられ最終リザルトは9位となった。

予選結果でマシンの好調さを僅かながらお見せすることができたものの、決勝結果は入賞に一步届かないものとなってしまいました。長年、共に歩んできた塚越とのレースはこれからです。次戦7月の富士スピードウェイでは皆さまに良い結果をご覧いただくべく、さらなる進化をとげて挑みたいと思います。皆様のご声援と共に、リアルレーシングと塚越広大は勝利を目指し戦ってまいります。引き続き応援をよろしくお願い申し上げます。

<http://realracing.jp>